

都情研の活動のスタートに当たって

東京都公立学校情緒障害教育研究会会長

文京区立小日向台町小学校校長

小川 深雪

雨の中、平成二十二年四月二十七日には、六百人を超える会員の参加のもと都情研の総会が開催され、いよいよ今年度の活動がスタートしました。今年度は二十三年度に開催予定の全情研東京大会に向けた二年計画の最初の年にも当たり、二年間を見通した活動計画の提案という点で、総会の場で確認・共通理解が図れたことは大変有意義であったと思います。大会実行委員長の杉並区立大宮小学校の曾我部和広校長先生を中心に今後体制作りを行ってまいります。東京から全国に発信できるよい機会と捉え、皆様の英知を結集していきたいと考えます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

特別支援教育については、喫緊の課題として、文部科学省からの施策や内閣府における障害者制度改革・障害者の権利に関する条約等に伴う

インクルーシブ教育推進が今後どのように進んでいくのかということがあげられます。平成二十二年一月二十九日に閣議決定された『子ども子育てビジョン』〜子どもの笑顔があふれる社会のために〜の文章（抜粋）には次のように記されています。『特別支援教育の推進・インクルーシブ教育システムの構築という障害者権利条約の理念を踏まえ、発達障害を含む障害のある子ども一人一人のニーズに応じた一貫した支援を行うために関係者機関の連携により、学校現場における特別支援教育の体制整備を進めるとともに、教員の特別支援教育にかかわる専門性の向上等により、特別支援教育の推進を図ります。』

今後の国等の動向も見つめながら、目の前の子どもたちへのよりよい支援、東京都の「通級指導」のあり方

について様々な実践を通して探っていきたいと考えます。

総会に続く記念講演では、NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかながわ所長（特別支援教育士 S V 学校心理士）の安住ゆう子先生より「社会性を高める指導〜具体的な実践から〜」をテーマにご講演いただきました。『社会性とは』『社会性が育ちにくい理由は』『社会性を身につけるために必要なソーシャルスキルトレーニング』等について具体的な指導の実際について詳しくお話ししていただきました。また、『目標設定の仕方』『ゲームの工夫』等について、子どもの特性や発達段階に合わせた指導を楽しく行っていく大切さについても学ぶことができました。ぜひ、これからの実践に生かしたいだければと思います。

最後になりましたが、総会でご挨拶をいただきました、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 石塚謙二様、東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育課統括指導主事 市川裕二様、文京区教育委員会教育指導課統括指導主事 景山与賜也様、全国情緒障害教育研究協議会会長都立板橋特別支援学校校長 鈴木敏郎様に心より感謝申し上げます。

平成二十二年定期総会報告

四月二十七日（火）文京区立小日向台町小学校において、平成二十二年定期総会が開かれ、事業報告、決算報告、新年度役員、事業計画、予算案などが審議・承認されました。

また、会場からの発言で、都情研が全情研（全国情緒障害教育研究協議会）から第四十四回全国大会の開催を委託された経緯についての質問が出されました。全国大会の開催については、前年度の総会で会長からお話があつたのですが、皆様には十分周知されていなかった点もあり、今回の総会で改めて、平成二十三年度第四十四回全国情緒障害教育研究協議会全国大会を東京において都情研で主催することが確認されたことをお知らせいたします。

都情研が東京都教育委員会認定研修団体・研究推進団体として認定されました。特別研究部の夏季研修会は、認定研修として別途申し込みが必要ですが、その他の都情研の研究会・研修会は、「出張などの取り扱い」に基づき研修出張とすることができ、皆さんの参加をお待ちしております。

（文責 嶺町小学校 三村勝規）

社会性を高める指導と具体的な実践から

NPPOソフトウェア LD発達相談センターかながわ

安住ゆう子先生

一、社会性とは

「その人が属している社会においてその成員に受容されていること、なおかつ自己の目的を達成することができていること」を社会性があるといえます。

共感ができる、空気が読める、良心がある、道徳心がある、社会的判断力、自己統制の力などがあり「みんなもokあなたもok、お互いに心地よい関係を作ることのできる人」を社会性がある人と考えます。そしてそれは、基礎感覚や粗大運動、巧緻性、言語、認知面などの基本的な力が育つていって、それら全ての能力が結集して発揮される力なのです。

二、社会性が育ちにくい背景

経験不足などの環境による場合・気質としての特徴・発達のアンバランスさ・意欲、自信等の情緒面による習得のしにくさ等が考えられます。

特に発達障害をもつ人たちは、次のようなさまざまな面で弱さを

持つているため、結果として社会性の課題をもちやすくなります。

◆感覚・運動・行動レベルのつまずき

感覚異常・不器用・注意の焦点化・注意の持続・注意の選択

◆言語・認知・コミュニケーションレベルのつまずき

言葉の理解・記憶・語用論・思考力・興味関心の偏りや狭さ・イメージ化・心の理論・表情の読み取り・状況の総合的な読み取り

◆実行機能・メタ認知レベルのつまずき

見直し・点検・確認・吟味・優先順位・経験の活用・視覚認知・こだわり

そのつまずきの背景（原因）を整理し、それを育てていくためにはどのような方向で、どのような方法をとることが効果的なのかを考えて、適切な指導のプログラムを立てていくことが大切になります。

三、ソーシャル

スキルトレーニングとは

「社会性を身につけるために必要なスキルを獲得するための指導を意図的に行うかわかり」であり、その場が、療育や教育の場です。

発達段階ごとのソーシャルスキルのポイント

- 幼児期：基本的なルールの習得
 - 挨拶・お礼・謝罪・依頼・貸し借り・待つ・聞く等
- 学童前期：友達付き合いを学ぶ 集団行動
 - 集団ルール遵守・発表や話し合いの基本
 - わからないとき嫌なとき意思表示 ・協力、共感
 - 冗談 ・上手な見過ごし無視
- 学童後期以降：仲間だけの関係が保てる
 - 年齢や場に応じた振る舞い（常識を知る）
 - 建設的な自己主張・妥協する、違いを認める
 - 距離を保つ、干渉しない ・自己理解
 - 趣味の合う子を見つける ・いじめ、からかいへの対処
 - ユーモアの理解 ・親友を見つける ・異性の関わり方
 - 先輩、上司や後輩としての関係の維持

学童後期以降に自己理解をしていくためには、苦手なところや得意なところを知らせ、療育の場に通つてきていることの意味を子どもが納得できるように説明していくことが必要であると考えます。

年齢の小さい段階でも、理解できる子どもには、何の練習をするために来るのかを知らせていくことをしています。そのことが、高校生や大人になって診断名を伝える時期が来た時に、小学校期は自分

が上手に障害と付き合い合っているのだと受け入れて、スムーズな理解につながっていきます。

四、指導の基本的な考え方

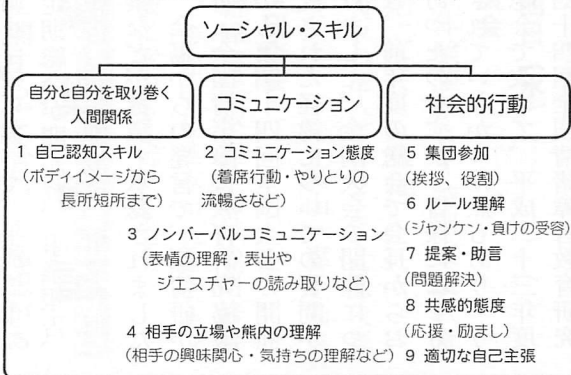
(1)プログラムの進め方

①問題の把握

成育歴、心理検査、チェックリスト、保護者からの聞き取り、行動観察等で、子どもの実態把握を行い、何が原因でつまずいているのかを考えます。

ソーシャルスキルを集団や対人場面における適応技能とした時、具体的な言動とは・・・

(自立のためのチェックリストより)



②指導形態の決定

通常級の中での配慮・支援、とりだしての個別指導やグループ指導等から選択します。

③ グループニング

年齢、特性（問題の整理）、集団の規模を考えます。

④ 年間指導目標、年間プログラムの作成

⑤ 指導

一年間を三期に分けて考えていきます。まずは、心地よい空間作りを心がけ、スキルを意識させます。友達付き合いを学んでいく場所であることを意識することができきたら、次に、集団性を高めることを目標にします。集団での活動の終わりの振り返りを自分でできるように指導をします。最後に葛藤場面を意図的に設定し、それをどう解決していくか考える活動や学校生活でも生かしていけるように般化を意識した活動を設定していきます。児童生徒たちだけで役割をとったり、相談したりしていけるようになることを目指します。

⑥ 再評価

(2) 基本的な指導の流れ

まず、アセスメントからスキルを決定し、そのアプローチの仕方や教材を準備します。次に教示・ルールの提示（インストラクション）、手本を示す（モデリング）をし、子どもの理解を促します。それから、練習（行動リハーサル）を繰り返す（フィードバック）を繰り返す。

り返しを行い、ある程度定着したら他のゲームをやったり、クラスで使ってみたりして般化につなげていきます。

(3) ソーシャルスキルトレーニングの目的

社会性のスキルを身につけてクラスの中でも上手に使えるようになることです。

自分の事を過大評価したり、過小評価したりしがちな子どもたちです。振り返りをしていくことで、自分のよいところも悪いところも全部含めての自分であることを受け入れられるようになることも大切です。そして、年間同じグループで学習を重ねることで、人間関係が育つていき、通級が終了した後でも付き合っている仲間成長していきます。

五. 指導の実際

(1) 自分の課題を意識させる

約束や目標は、本人がちょっとがんばればできることやもうできているところから選んで、まずは達成感が感じられることから始めること、マンネリ化しないように年間で目標を想定し、正の強化も工夫してから始めることが大切です。低学年は、三〇分くらいずつでの細かい振り返りや視覚的に

で示すことが必要な場合もあります。がんばりシールは、絵柄の工夫をすると子ども達が励みにして効果が高まります。

中学年になると、自己評価をしてから担任の先生と一緒に確認するなどの二重評価もできるようになります。

高学年や中学生は、グループでの目標も伝えます。学校生活で意識させることについて記録をとり、次回の通級時に振り返ることをしています。

(2) ゲーム形式

負けることが嫌で、大騒ぎをしてしまうことが課題になる子ども達に対しては、最初は勝敗相手のないゲーム（缶積み競争やかけっこ玉入れ等）を組みます。友達と相談したり、応援したり、順番を守ったりと協力することで、早く、たくさんできて記録が上がるゲームです。

また、「〇曜日のグループは〇点だったんだよ。」と話して架空のチームとの対戦を意識させたり、大人と対戦したりすると、協力する気持ちが高まり、ゲームの楽しさを感じることが出来ます。徐々に負けを受け入れられるようになってきてから、グループ戦や勝ち負けが頻繁におこるゲームをし

ます。チーム戦の時は、味方の応援ができた、敵の悪口を言わなかった等のチームワーク得点の工夫をすることで、ゲームの勝敗だけにこだわらなくなります。ルールが複雑なカードゲームでは、枚数を減らしたり、ルールを少なくしたりする工夫をして、成功体験が積めるようにします。

また、ゲームだから負けることも勝つこともあること、負けた時に泣いたり、怒ったりしないこと、勝つても自慢しないことを事前に話して、約束させて心の準備をさせることがとても有効です。

(3) ディスカッション、デイベート

低学年のグループでは、順番を決めるための話し合いから始めます。学年が上がるにつれて、興味をもってそうなテーマで、話し合う場を設定します。話し合いの段取りをシートで提示したり、話し合いのポイントを言い方の例を示して提示したりすることで見通しをもつことが出来ます。短時間でできる内容にすることも大切です。

(4) ロールプレイ・絵カード・ソーシャルストーリー

自分の行動を振り返り、整理することが効果的にできます。市販されているものでは合わない時は、子どもの実態に合わせてアレンジ

してあげることが大切です。
(5)共同作業（調理や工作）

用具や材料を少なめに用意して、貸し借りをしたり、分担したりと、協力や話し合いができるような状況を設定します。また、それぞれが違う工作をして、それを友達や家族に分かりやすく教えてあげる「教え合い工作」も中学年くらいになってくると、よい練習になります。

友達と一緒に大きな作品を作る課題では、お互いの意見をすり合わせたり、合体させたりと、意見が合わない時の解決法を学ぶこともできます。

六、つまずきに合わせた指導例

最後にチェックリストの三つの観点のつまずきに沿った指導例について紹介します。

(1)自己認知スキル（自分の長所や短所、適性を知る）

①ワークシート

自分についてチェックしていきます。設問に対して、なかなかどちらかを決めることができない時は、事前に「どちらとも言えないに○をつけるのは二回までにしよう」と約束をして記入してもらいました。中学生には、年度初めに自己チェックをしてもらい、がん

ばりしたいことを意識させ、毎月振り返りをしてもらっています。

②なんでもさいころすごろく

問題が書かれたサイコロを振って、自分の事を答えて行くゲームです。「好きな教科は何？それはどうして？」「劇をするならどの役割？」「嫌なことがあったらどうする？」等の設問があります。

③好き嫌いゲーム

「かみなり」「ピンク色」「納豆」

「狭くて人がたくさんいるところ」等の質問に対して、好きか嫌いかをそれぞれが意思表示するゲームです。友達と取り組むことで、人によって好き嫌いに違いがあることが分かり、好きなことを悪く言われたらどんな気持ちになるかを学習することで、友達に対する言葉かけも気をつけるようになります。

(2)コミュニケーション態度・やりとりの流暢さ

①ワークシート

「聞き取り名人」になるためのポイントについて意識させます。

②ことばでコピー

絵の特徴を友達に言葉で伝えて、描いてもらうゲームです。初めに何ができるか、伝え方のポイントを指導しておきます。また聞く役割の人が、わからない時にどのよ

うな言い方をすればいいかも示しておきます。

③ことばのピラミッド

一つのテーマでお互いに言葉のキャッチボールをするゲームです。友達が話した内容について、必ず返事や相づちを入れてから、次の人が話していきます。

(3)ノンバーバルコミュニケーション
・気持ち日記

市販の表情絵カードを参考にしながら、その日の気持ちを、四行程度の短い日記に書いていきます。

(4)相手の立場や気持ちの理解

真実であっても言っていないこと、友好的な言葉と敵対的なことばがあること、イントネーションによって意味が異なること、言葉と裏腹な意味があること、人によって言われて平気なことと嫌なことが違う場合があることについて知ることが必要です。実際にあつたことをアレンジするなどしながら、指導していきます。

(5)自分の行動や気持ちをコントロールすること

①気持ちの温度計

自分の感情を数値化すること意識します。「自分の怒りの感

情が、○度になったら、深呼吸しよう」等 対処法についても意識させます。

②そつと・ゆっくりゲーム

物を高く積み、水がいつぱい入ったコップを運ぶ、短い距離を一〇秒かけて歩くなどで、ゆつくり、力を抜くことを知るゲームです。

(6)共感的態度

①気持ち調べ

「四つの気持ちとその他」の五つの気持ちを表情絵カードと一緒に紹介します。その後、提示された場面に対して、自分の気持ちをチップ（五つの表情が描かれている）で出していきます。グループで取り組むことで、お互いの気持ちを共感したり、人によって感じ方が違ったりすることを学ぶことができます。

②共通点探しゲーム

二人から三人のグループで、自分達の共通点をできるだけたくさん探していくゲームです。

〈参考文献紹介〉

「自立のためのチェックリスト」

LD発達相談センターかながわ
「教室・家庭でいえずく使えるSST」

かもがわ出版

平成22年度 新設学級、再開学級、休級学級等一覧

平成22年4月20日現在

Table with 4 columns: No., 区市町村, 学校名, 学級名. Lists 18 schools and their respective classes.

Table with 4 columns: 中設, No., 区市町村, 学校名. Lists 7 schools and their respective classes.

平成21年度 決算報告

(単位:円)

Summary table for平成21年度 決算報告 with 3 rows: 収入, 支出, 差引残高.

(収入内訳)

Table with 4 columns: 款項, 項目, 予算額, 決算額. Details income breakdown.

(支出内訳)

Table with 5 columns: 款項, 項目, 予算額, 決算額, 増減, 備考. Details expense breakdown.

平成22年3月31日

東京都立学校情緒障害教育研究会

会長

宮内 正秀 印

”

副会長(会計)

大野 正人 印

”

会計

横山 佳世 印

平成22年3月31日

監査の結果、正確であることを認めます。

東京都立学校情緒障害教育研究会

監事

佐藤 正志 印

鈴木 春樹 印

平成22年度 予算 (案)

(単位:円)

Summary table for平成22年度 予算 (案) with 3 rows: 収入, 支出, 差引残高.

(収入内訳)

Table with 4 columns: 款項, 項目, 予算額, 摘要. Details income breakdown.

(支出内訳)

Table with 4 columns: 款項, 項目, 予算額, 備考. Details expense breakdown.

平成二十二年年度

特別研究部活動予定

*都内の通常の学級、特別支援学級等すべての先生方を対象として研修会を計画しています。

(※申込みは×切りました。)

年間テーマ
「通常学級の中での発達障害の児童・生徒への具体的な支援・実践」

期日

平成二十二年七月二十八日(水)
〜七月二十九日(木)

会場

西東京市 保谷こもれびホール

内容

第一回・第二回

七月二十八日(水) 十時〜十二時
「通常学級の特別支援学級経営と授業作り・楽しいミニネタを交えて」

講師 佐藤 慎二 先生
(植草学園短期大学 教授)

十三時三十分〜十五時三十分

「クラスで取り組むソーシャルスキル」具体的な事例や模擬体験を通して」

講師 小貫 悟 先生
(明星大学 教授)

第三回・第四回

七月二十九日(木) 十時〜十二時
「小・中学校時代に必要な支援」当事者の声を交えて」

講師 月森 久江 先生
(早稲田大学大学院 非常勤講師)
村上 由美 先生
(当事者 言語聴覚士)

十三時三十分〜十五時三十分

「通常学級での具体的な支援」クラスで気になる子のサツとツール&ふわつとサポート」

講師 阿部 利彦 先生
(所沢市教育委員会 支援委員)

第四十三回

全国情緒障害教育研究協議会

愛媛大会のご案内

昨年度にも増して大会の内容は充実したものになっています。是非お誘い合わせの上ご参加ください。

大会テーマ・趣旨
「一人一人のニーズに応じた質の高い教育の推進」連携の質の向上を目指して」

期日

平成二十二年七月二十八日(水)
二十九日(木)

会場

愛媛県松山市ひめぎんホール他

内容

第一日目(二十八日)

記念講演

「子どもも教師も元気が出る授業づくり」

岡山大学教授 佐藤 暁先生

基調講演

「新学習指導要領とこれからの特別支援教育の動向」

文部科学省初等中等教育局
特別支援教育課特別支援教育調査官
石塚 謙二先生

シンポジウム

・コディネーター
愛媛大学教授 花熊 暁先生
・シンポジスト
医療、保護者、教育より

第二日目(二十九日)

分科会(五会場)

「乳児・幼児期における早期発見・早期支援」
「LD、ADHDの子どもに対する支援」
「自閉症の子どもに対する支援」
「障害のある幼児児童生徒を取り巻く関係機関との連携の在り方」
「LD、ADHD、自閉症等の就労支援」

大会事務局長

愛媛大学教育学部附属特別支援学校

川本 孝

〇八九(九一三) 七八九一

平成二十二年年度

設置校部 夏季集中研修会

期日 八月三日(火)〜四日(水)

会場 千代田区立千代田小学校

内容
「これからの情緒障害教育のあり方」
八月三日(火)

通級入門分科会

「中学校における情緒障害生徒の指導」
公開ディスカッション

「新しく情緒学級の担任になった先生の質問に答えます」
「こんな時どうする」

グループ討議

八月四日(水)

講演会

「私の体験談から特別支援教育に望むこと」(仮題)
講師(NPO法人)えじそんくらぶ代表
高山 恵子先生

実技研修会

*情緒障害学級担任向けの研修会です。参加申し込みが必要です。各学級に案内を送付します。

編集後記

広報に関するご意見、ご感想がありましたらお寄せください。

〇四二一七三三―五三五四

町田市立成瀬台小学校

編集・発行 広報部

印刷 株白峰